

【九州大学芸術工学部 芸術工学科 未来構想デザインコース】(2021年度以降入学者)

1) ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)

教育の目的

未来構想デザインコースは、人文社会科学、自然科学、情報科学、芸術表現の学びをとおして、今までデザインの対象とされてこなかった領域に踏み込み、新たな課題解決に挑み、よりよい未来を構想し実現に導ける創造的な国際的なデザイン人材を育成します。そのために以下の教育目標を達成したものに学士(芸術工学)の学位を授与します。

- ・既成概念にとらわれることなく、新たなデザインの分野を切り拓こうとする挑戦的な態度を持ち、実践しながら探究、実証しようとする志向性を有する。
- ・芸術、技術、思想の歴史と理論を理解し、現代の社会や人間のありようを説明し、未来社会を構想するために必要な知識を有する。
- ・情報科学を理解し、自然や社会における多様な現象を情報として数理科学的に捉える能力を持ち、生命現象の背後にある自然の仕組みを理解する能力を有する。
- ・芸術的表現方法を習得し、豊かな発想、デザイン実践に結びつける創造的能力を有する。
- ・新しい分野を切り拓き、新しいものをイメージし、文脈を作り、それを表現できる能力を有する。

参照基準

[Subject Benchmark Statement -Art and Design]

https://www.qaa.ac.uk/docs/qaa/subject-benchmark-statements/sbs-art-and-design-17.pdf?sfvrsn=71eef781_16

[Subject Benchmark Statement -History of Art, Architecture and Design]

https://www.qaa.ac.uk/docs/qaa/subject-benchmark-statements/sbs-history-of-art-architectureand-design-17.pdf?sfvrsn=dc98f781_12

[Subject Benchmark Statement -Computing]

<https://dera.ioe.ac.uk/25563/1/SBS-Computing-16.pdf>

[Subject Benchmark Statement -Biosciences]

https://www.qaa.ac.uk/docs/qaa/subject-benchmark-statements/sbs-biosciences-15.pdf?sfvrsn=4eef781_26

[Subject Benchmark Statement -Sociology]

https://www.qaa.ac.uk/docs/qaa/subject-benchmark-statements/sbs-sociology-16.pdf?sfvrsn=e696f781_12

[Subject Benchmark Statement -Social Policy]

https://www.qaa.ac.uk/docs/qaa/subject-benchmark-statements/subject-benchmark-statement-social-policy.pdf?sfvrsn=64e2cb81_4

[Subject Benchmark Statement -Philosophy]

https://www.qaa.ac.uk/docs/qaa/subject-benchmark-statements/sbs-philosophy-15.pdf?sfvrsn=6294f781_10

到達目標

A 主体的な学び・共同

- A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。

A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。 A-3. 文章表現能力、発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収できる。

B 知識・理解

B-1. 数理・情報科学分野の様々な概念を理解し、その基となる理論で自然科学や社会の現象を説明することができる。

B-2. 芸術工学の基盤となるデザインの具体的な知識・概念、考え方、方法について理解し、説明することができる。

B-3 芸術・デザインの理論、哲学、歴史および多様な表現技術とその効果を理解し、説明することができる。

B-4 望ましい未来社会を構想するために必要な多様性と持続可能性、および社会調査方法を理解し、説明することができる。

B-5 アルゴリズムやデータ構造の基本的な考え方と設計法、情報科学における重要な概念、理論を理解し、説明できる。

B-6 生命現象の共通性と多様性について、「進化」の視点を持った観察や実験を通して理解し、説明できる。

C 能力

C-1 適用・分析

C-1-国際. デザイン一般、及び専攻する分野の理論や知識、スキルを英語で学ぶことで、世界における先進的なデザイン活動に参画することができる。

C-1-1 自然や社会の多様な現象に関する情報を科学的方法で収集し、数理科学的アプローチから分析することで、その特徴を明らかにすることができる。

C-1-2 構想を可視化し、デザインの的方法論に則って設計・計画・実装することができる。

C-2 評価・創造

C-2-1 既存概念にとらわれることなく、人文社会科学、自然科学、情報科学、芸術表現の概念・知識、考え方、方法を統合し、論理的に組み立てることを通して、未来を構想する新たなデザインを創出することができる。

C-2-融合. 異分野との協働を通して専門知識を総合的に活用しながら、社会の複合的な課題を発見・提起し、解決することができる。

D 実践

D-1 豊かな発想力と深い洞察力をもって、よりよい未来を構想し、それを設計や実践を通して実現に導くことができる。

2) カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)

ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針に基づき、別表 (カリキュラム・マップ) の通り、教育課程を編成する。

アクティブ・ラーニングを重視する科目 (基幹教育セミナー、課題協学)、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目 (サイバーセキュリティ基礎論)、教養としての言語運用能力習得と異文化理解を目指す科目 (学術英語、初修外国語)、専攻教育を通して英語力習得を目指す科目 (専門英語)、専攻教育につながる基礎的知識と様々な分野の思考法を学ぶ科目 (文系ディシプリン、理系ディシプリン)、ライフスキルの向上を目指す科目 (健康・スポーツ)、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目 (総合、高年次基幹教育) などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働 (A-1、2、3)」を培う。

知識と理解を重視する科目群として、数学、物理学、情報学の概念の理解と理論を学ぶ理系ディシプリン科目 (B-1) と、芸術工学の基盤となる知識や概念、考え方、方法を学ぶデザインリテラシー科目 (B-2) がある。さらに「アート・デザイン」「社会構想」「生命・情報」の3分野から構成される本コース独自の科目である「コース必修 (基礎) 科目」「コース専門科目」においては、それぞれ、芸術とデザインの理論、哲学、歴史および多様な表現に関する科目、多様性と持続可能性についての理論と社会調査方法を学ぶ科目、アルゴリズムやデータ構造の考え方と設計法、情報科学の概念や理論を学ぶ科目、および生命現象の共通性と多様性を進化の視点で理解する科目が含まれる (B-3、4、5、6)。

適用・分析を重視する科目群は、スキルの活用を目指し、専門分野を英語で学、世界における先端的なデザイン活動に参画する国際コースに対応する科目群 (C-1-国際)、自然や社会の多様な現象を科学的な手法で収集、分析することを学ぶ科目群 (C-1-1)、構想を可視化し、設計・計画するデザイン科目群 (C-1-2) によって構成される。

評価・創造を重視する科目群は、研究力の涵養を目指し、既存概念にとらわれず、人文社会科学、自然科学、情報科学、芸術表現の概念や方法を統合し、論理的に組み立て、新たなデザインを創出する科目群とプロジェクト形式のコース演習科目 (C-2-1)、さらに異分野との協働を通して専門知識を総合的に活用しながら、社会の課題を発見し、解決に導く能力を養う融合プロジェクト科目と各デザイン分野の専門を横断的に学修する進化・展開科目 (C-2-融合) が含まれる。

実践を重視する科目群は、優れた発想力と洞察力をもって未来を構想し、設計や実践をとおして社会実装を目指す科目で、卒業研究とインターンシップ科目が含まれる (D-1)。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み (内部質保証)】

学修目標の達成度は、以下の方針 (アセスメント・プラン) に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性がないかをコースに設置するカリキュラム検討WGにおいて恒常的に検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- ・「導入・基礎」期の評価：学生の成績評価を総合的に精査する。
- ・「発展」期の評価：重点科目を設定して、その中で当該分節の中で焦点化した知識・能力の習得度を確認する。
- ・「統合」期の評価：学びの集大成としての卒業研究を、共通ルーブリックに基づいて審査する。

3) アドミッション・ポリシー (入学者受け入れ方針)

求める学生像

国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様な視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。

未来構想デザインコースでは、次のような資質、意欲・関心を備えた学生を求めている。

1. 近い将来の我々の社会のありように関心を持ち、既成概念にとらわれることなく、新たなデザインの分野の開拓や表現活動への挑戦と創造への強い意欲を有する。
2. よりよい社会を構想するために、芸術、技術、思想に関する知識と、自然や社会を数理科学的に捉える生命科学、情報科学に関する知識を習得するために必要な基礎学力を有している。
3. 社会的な課題に関心を持ち、論理的な思考力と実証的な志向性を有する。

求める学生像と学力3要素との関係

- ① 知識・技能：高等学校等における基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。特に上記の求める学生像の2.に対応している。
- ② 思考力・判断力・表現力等の能力：多面的に考え、客観的に批判し、自分の言葉で人に伝える資質。上記の求める学生像の3.に対応している。
- ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：未来を構想し、デザインを通して実現することへの関心。多様性を尊重する態度、異なる考えに共感する寛容性。上記の求める学生像の1.3.に対応している。

入学者選抜方法との関係

	①知識・技能	②思考力・判断力・ 表現力等の能力	③主体性を持って 多様な人々と 協働して学ぶ態度
一般選抜	調査書 大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査	調査書
総合型選抜	調査書 大学入学共通テスト	表現・プレゼンテーション・対話・レポート	調査書 対話・レポート 志望理由書
学校推薦型選抜	推薦書 調査書 自己活動評価書 小論文	推薦書 調査書 作文 自己活動評価書 小論文面接	推薦書 調査書 作文 自己活動評価書 面接

芸術工学部芸術工学科 未来構想デザインコース カリキュラムマップ

凡例	科目区分	基幹教育 必修	基幹教育 選択必修	専攻教育 デザインリテラシー科目	専攻教育 コース基礎科目	専攻教育 コース演習科目 (PBL)	専攻教育 コース融合プロジェクト・プラットフォーム	専攻教育 コース専門科目	専攻教育 卒業研究・設計
	(再掲は薄色表示)	基幹教育 必修	基幹教育 選択必修	専攻教育 デザインリテラシー科目	専攻教育 コース基礎科目	専攻教育 コース演習科目 (PBL)	専攻教育 コース融合プロジェクト・プラットフォーム	専攻教育 コース専門科目	専攻教育 卒業研究・設計
		基幹教育		専攻教育 デザインリテラシー科目	専攻教育 コース基礎科目	専攻教育 コース演習科目 (PBL)	専攻教育 コース融合プロジェクト・プラットフォーム	専攻教育 コース専門科目	専攻教育 卒業研究・設計

学年	学修目標	1年生				2年生				3年生				4年生										
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q							
実践	D-1 豊かな発想力と深い洞察力をもち、よりよい未来を構想し、それを設計や実践を通して実現に導くことができる。													インターンシップ(学部) I										
														インターンシップ(学部) I										
評価・創造	C-2 融合 異分野との協働を通して、専門知識を統合的に活用しながら、社会の複合的な課題を発見・提起し、解決することができる。 C-2-1 既存概念にとらわれず、人文社会科学、自然科学、情報科学、芸術表現の概念・知識、考え方、方法を統合し、論理的に組み立てることを通じて、未来を構想する新たなデザインを創出することができる。																							
適用・分析	C-1-2 構想を可視化し、デザインの方法論に即して設計・計画・実践することができる。 C-1-1 自然や社会の多様な現象に関する情報を科学的な方法で収集し、数値科学的アプローチから分析することで、その特徴を明らかにし、応用することができる。 C-1-国際 デザイン一般、及び専攻する分野の理論や知識、スキルを英語で学ぶことで、世界における先進的なデザイン活動に参画できる。																							
知識・理解	B-6 生命現象の共通性と多様性について、「進化」の視点を持った観察や実験を通して理解し、説明できる。 B-5 アルゴリズムやデータ構造の基本的な考え方と設計法、情報科学における重要な概念を理解し、説明できる。 B-4 望ましい未来社会を構想するために必要な多様な持続可能性、および社会調査方法を理解し、説明することができる。 B-3 芸術・デザインの理論、哲学、歴史および多様な表現技術とその効果を理解し、説明することができる。 B-2 芸術工学の基礎となる具体的知識や概念、考え方、方法について理解し、コースごとの専門にとどまらない普遍的なデザインのリテラシーを説明することができる。 B-1 教養・専門基礎、リメディアルの3つを修得した科目を通して、知識を伝える力を備えることができる。																							
主体的な学び・協働	A-3.文章表現能力、発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収できる。 A-2 (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたること A-1 (主体的な学び) 深い専門知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。																							
学修目標	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q								
学年	1年生				2年生				3年生				4年生											
学士課程の時期区分	導入・基礎期								発展期								統合期							
アセスメント・プラン	達成度調査(専門力) その1								達成度調査(専門力) その2								卒業研究の審査【共通ルーブリック】							